



坂田明SOS

1972年に山下洋輔トリオに加入してから半世紀以上、今年81歳の坂田明は今もグループに活動し続ける。様々なグループの結成と解体を繰り返す彼の最新バンド“坂田明SOS”。メンバーは、フリージャズの第一人者・坂田明、フリージャズと現代音楽が交差するピアニスト・大森菜々、ポップスからジャズまでボーダレスに活動するドラマー・坂田学(坂田明の息子)。

3人は2017年に初共演し、その後かわいしのぶ(ベース)を加えた“坂田明COCODA”として活動を始めた。2023年にCD「枯れたひまわり」をリリースし好評を博している。

2024年の北海道ツアーからトリオ編成の活動も開始。2025年にバンド名を坂田明SOSと命名し、アースデイ、春一番などのフェスへの参加、6月には、呉、徳島、岡山、尾道、島根、広島6ヶ所のツアーを敢行。長年のファン以外にもフリージャズに接点のなかった方々からも老若男女問わず評判が良い(驚きの声、爆笑も含む)。2025年6月“坂田明SOS”1st Album「In a Sentimental Mood」をリリース。毎回予測不可能な演奏を「車窓から見える風景のように眺めてくれれば良いです」と坂田は言う。

是非ともSOSの音をキャッチしていただきたい。

坂田明 (さかたあきら)

A.Sax・Cl.voice 1945年広島県呉市出身。広島大学水産学科卒業。1969年上京後「細胞分裂」を結成。1972年～79年山下洋輔トリオに参加。以後「wha-ha-ha」「DA-DA-DAORCHESTRA」「MITOCHONDRIA」など様々なグループの結成、解体を繰り返しながら、世界のあちこちであれこれしながら今日に至る。現在はレギュラーグループ、ARASHI (Johan Berthling, Paal Nilssen-love)、梵人譚 (Jim O'Rourke, Giovanni Di Domenico, 山本達久)、坂田明 SOS(大森菜々、坂田学)を中心に数多くのセッションを展開中。著書には「ミジンコの都合」(共著日高敏隆晶文社)、「クラゲの正体」(晶文社)、「瀬戸内の困ったガキ」(晶文社)等がある。近著は「私説ミジンコ大全」CD「海」付(晶文社) DVD「MIJINKO a Silent Microcosm」。東京薬科大学生命科学部客員教授、広島大学大学院生物圏科学研究科客員教授。

坂田明オフィシャルサイト <http://www.akira-sakata.com>



大森菜々 (Piano)

愛知県岡崎市出身。幼少期をインドネシアで過ごし、高校の時に近代・現代音楽と出会い衝撃を受ける。

その後渡米、現地大学にて現代音楽を中心に学ぶ。

在学中、フリーランスのミュージシャンとして近郊の音楽イベントやコンサートにも多数参加し、アкомпニストとして、近隣のコミュニティイベントやコンクールで数々の伴奏をこなす。

2010年に帰国後、フリージャズユニット「pd」を結成。2015年にpd初となるミニアルバム「usagi to neko」をリリース。

森山威男、坂田明、小山彰太、Paal Nilssen-Loveをはじめとする著名なミュージシャンとも多数共演。

現在は「坂田明 SOS」に参加する傍ら、様々なセッションにも参加、東海地区を中心に活動中。



坂田学 (ドラマー/音楽家)

1973年生まれ。10歳でドラムを始める。1993年米国MIへ音楽留学。帰国後ドラマーとしてキャリアをスタート。ポップスからジャズまで音楽性は幅広い。ピアニアンズ、ボリス他多数のバンドにも参加。2004年ソロ・プロジェクトを始動し、アブストラクト、歌もの、サウンドトラックなど5枚のソロ作品を発表。風の箱(カイトボックス)「なにげないもの」の舞台音楽、「よあけの焚き火」など3作の映画音楽も手掛けた。2023年、親子共演している“坂田明COCODA”のCD「枯れたひまわり」をリリース。本作収録の「枯れたひまわりのバラード」を作曲。近年は、あいみょん、大貫妙子、たなかほか、川村結花、T字路sのライブやレコーディングに参加する一方、即興演奏、ギター弾き語り、鹿島達也(b)とのイベント、勝井祐ことのDUO、白井良明のRyomei Triangle、坂田明SOS、音楽制作など活動は多岐にわたる。



TFU Cafeteria Olive

仙台市宮城野区榴岡2丁目5-2 6
東北福祉大学仙台駅東口キャンパス1F
※JR 仙台駅東口より徒歩3分

Tel 022-762-7827

Fax 022-762-7828

mail info@cafeteriaolive.com

URI cafeteriaolive.com